

# 学校運営協議会だより

文責 CS事務局

回  
覧

学校運営協議会だよりNo.15では、学校評価を解説したいと思います。また、学校運営協議会委員による学校関係者評価も紹介したいと思います。

## ①学校評価とは？

学校評価は、子どもたちがより良い教育を享受できるよう、その教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展をめざすための取組です。

## ②学校評価の法的根拠

学校評価については、小学校設置基準等において、各学校は自己評価の実施とその結果の公表に努めること。また、保護者等に対する情報提供について積極的に行うこととされています。

## ③学校評価の目的 「学校評価ガイドライン」文部科学省より

学校評価の目的について

- 学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目標とすべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- 学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者・地域住民等からの理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを推進すること。
- 学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

## ④ 協議会が実施する学校運営等に関する評価

### 自己評価 （各学校で実施）

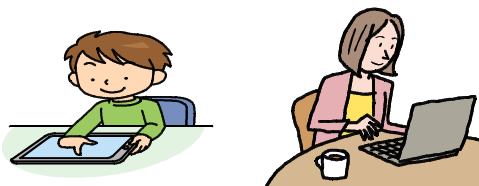
#### 自己評価

全教職員が参加し、設定した目標や、その達成状況、達成に向けた取組の適切さについて評価を行います。



#### 児童・生徒用と保護者アンケート

目標の設定、達成状況や取組の適切さについて評価するために児童・生徒用や保護者対象のアンケートを実施します。



児童アンケート

保護者アンケート

#### 学校関係者評価

保護者、地域住民、関係団体など学校関係者により構成された委員会により、自己評価の結果について評価を行う。



学校運営協議会で実施

(前期= 10 月 後期=2月実施)

京極小学校・中学校においては、年2回学校評価を実施しています。本年度の前期学校関係者評価は、第3回学校運営協議会(10月実施済み)の中で行われています。

## 学校関係者評価の具体例を紹介したいと思います。

前段で「学校評価」「学校関係者評価」を紹介しました。ここでは、「学校関係者評価」を説明します。「学校関係者評価」は、各学校で実施した「学校評価」の結果について評価を行います。下記の「学校関係者評価報告書」を活用して、小学校8名・中学校7名の委員により総合評価※1を行います。また、自己評価結果（学校運営）に対する意見※2を述べます。

【京極小学校 学校関係者評価報告書】例

★学校教育目標：進んで心と体をきたえる子どもの育成

観点	目指す子ども像	自己評価	分析（○成果 ●課題 ☆今後）	関係者評価	学校運営への意見
まなび	自分で考え、 表現し合って 高め合う子	A	<div>○楽しみながら取り組む学習</div> <div>●伝え合い、説明し合う学習</div> <div>☆ICT活用方法の工夫を行う</div> <div>☆個別最適な学びの研修を行う</div>	※1	※2
こころ	お互いに認め合 って協力できる 子	B	<div>○いじめの積極的な認知と対応</div> <div>●家庭での読書週間</div> <div>☆日常的な情報交流、声かけ</div> <div>☆あいさつ、返事の継続した指導</div>	A（十分である）B（おおむねよい）C（やや不十分）D（不十分）	学校の評価結果を受け、委員各位より学校に意見を述べます。
からだ	自分の体力に興 味を持ち、高め ようと取り組む 子	B	<div>成果発表場面の設定（運動会）</div> <div>正しい生活リズムと運動習慣</div> <div>生活リズムチェックシート</div> <div>ノーゲームスマホデー</div>		

前期・後期の年2回自己評価（ABCD）と分析を行う。

学校関係者評価（A～D）と学校運営に意見を述べる。

運営協議会だより No. 13 で紹介しました「ネットトラブル防止の取組」に関する話題です。

## 心配なニュース

### ゲーム・スマホの時間が増加

平日の勉強時間は小中学生でいずれも減少した一方、テレビゲームやスマートフォンの利用時間はいずれも20分近く増加。ゲームやスマートフォンの使用時間が一定時間を超える場合、児童生徒の各教科の平均正答率低下する傾向に。SNSや動画の視聴時間と授業の理解度には相関関係が見られ、「算数の授業はよくわかる」と回答した小学生のSNS視聴時間は「1時間未満」が57.1%、「4時間以上」が8%だったのに対し、「よくわからない」と回答した児童は、「1時間未満」が34.1%、「4時間以上」が29.4%だった。

（国立教育政策研究所調査 8月1日）

児童・生徒のゲーム・スマホの利用は、日本の大きな課題です。小学校の「ノーゲーム スマホデー」の取組を、学校運営協議会としても是非応援していきたいと考えています。